

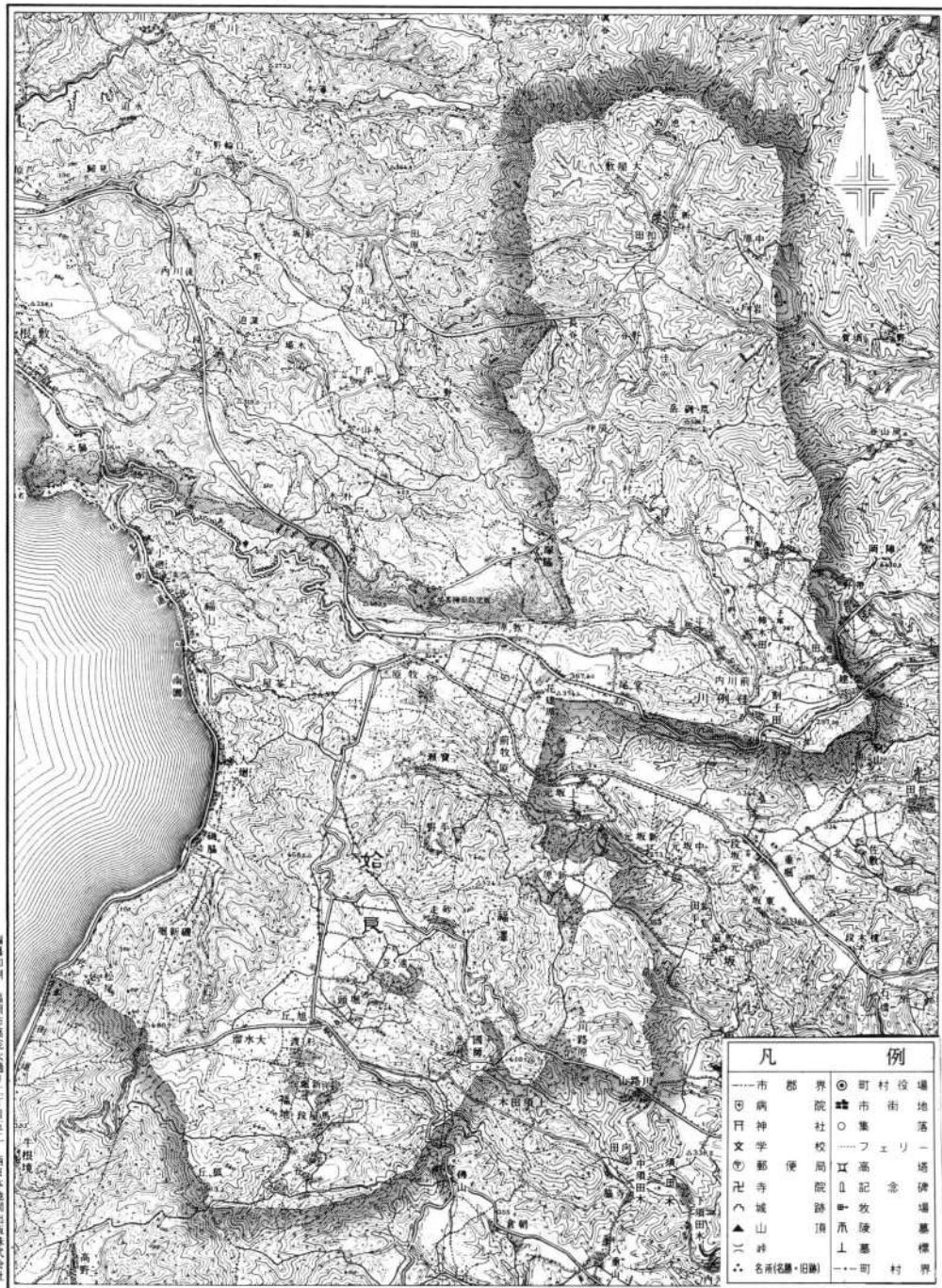
福山
町郷土誌

編

三

町

福山町全図

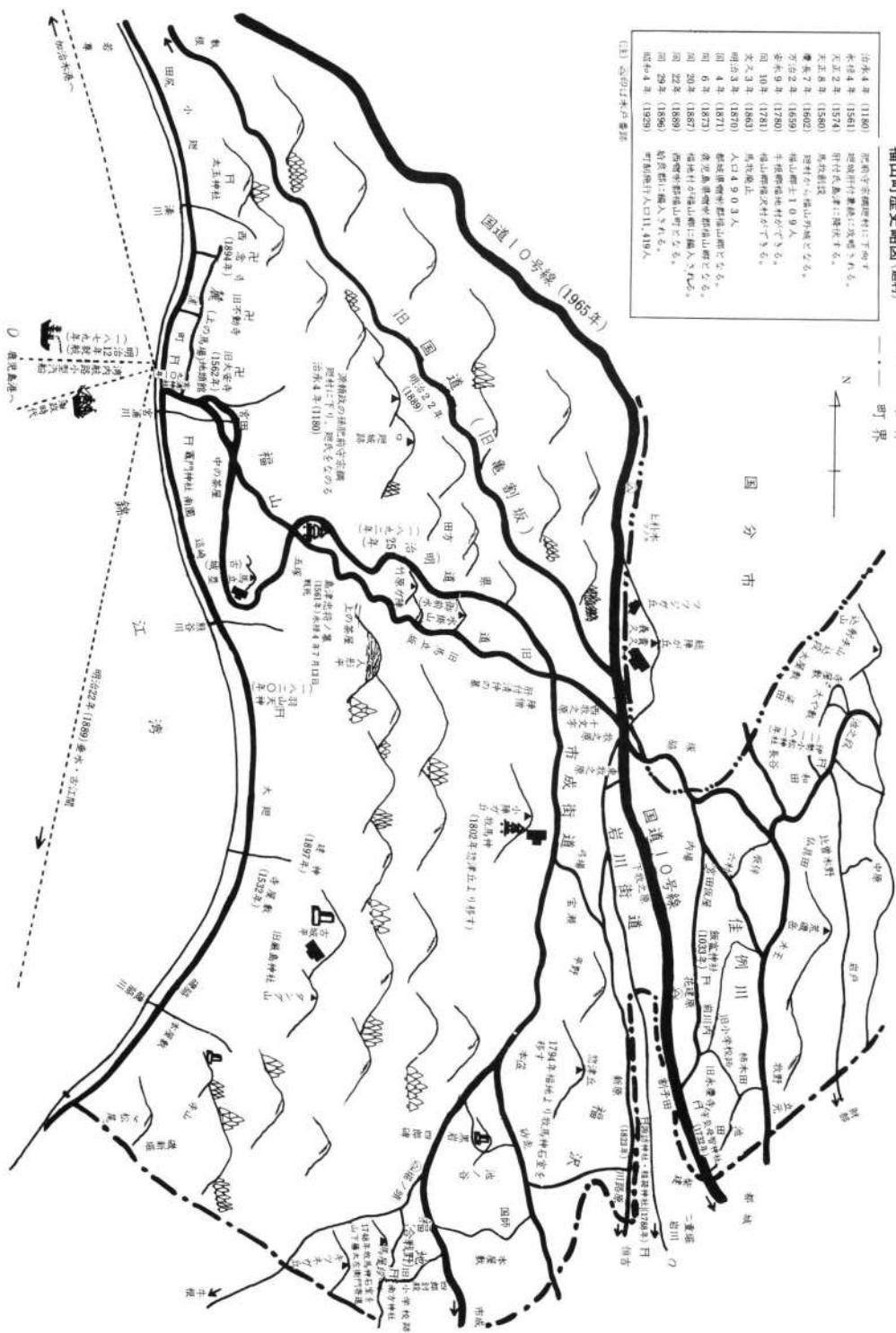


福山町歴史略図(選村)

市界
町界

| | |
|-------------|-------------------|
| 治承4年(1180) | 肥前守被選村に下向す。 |
| 承和4年(1181) | 肥前守は肥前守に改められる。 |
| 元正2年(1194) | 田代村に隸する。 |
| 天正8年(1580) | 馬代村が設立される。 |
| ◆永7年(1602) | 選村から福山外城となる。 |
| 万治2年(1659) | 福山城主: 10人。 |
| 安永9年(1770) | 牛伏宿が移転される。 |
| 寛政4年(1792) | 福山城主: 2人。 |
| 文政2年(1819) | 馬代宿。 |
| 明治3年(1870) | 人口: 9,311人。 |
| 明治4年(1871) | 肥前守被選村が福山城となる。 |
| 明治6年(1873) | 鹿児島藩領が福山城となる。 |
| 明治20年(1887) | 福地の小寺村が福山城となる。 |
| 明治22年(1889) | 西曾根町が福山城となる。 |
| 明治29年(1896) | 船戸町が福山城となる。 |
| 明治46年(1923) | 可利原町が福山城となる。 |
| 昭和4年(1928) | 船戸町: 人口: 11,419人。 |

(1:100,000)



昭和五十三年九月

町制五十周年記念

福山町郷土誌

福
山
町





3代村長
黒丸市助



2代村長
松下織之介



1代村長
厚地政徳



6代村長
河原定利



5代村長
西大海



4代村長
厚地政清

福山の歴代 村長・町長



8代村長
中尾直一郎



7代村長
中島貞広



13・14代村長
松下兼精



10・11代村長
厚地金次郎



9・12代村長
中尾親記



4・5代町
中尾廉



3代町長
松下茂一



15代町長・1・2代村長
入来太兵衛



8・11・12代町長
平原一熊



7代町長
田中省吾



6・9・10・13代町長
豊平金二



福山町長
松下昌宜



取入役
二間瀬行雄



助役
中村新太郎



福山町議会議長
大王久雄



福山町議会副議長
大野盛男



町議会議員
 (後列) (前列)
 松下 昭 松下 荣盛
 豊平 三盛 久米村信一
 久田 安一
 菊池三男 大王 久雄
 川東清之助 大野 盛男
 井料 輝夫 城野 安二
 山下久治 砂田 光則
 有村篤義



町農業委員会（昭和24年）
 浜田善五郎 小河原福造 山下 重義
 広瀬四女子 重留 夕工
 二間瀬行雄 井之口敬次
 山形 虎助 愛甲 重志
 橋口 政則 砂田 正雄
 井料弘 川畑 純雄 米沢 盛弘
 宇都 又三 口ノ町省三
 大王 久雄 谷山 祐吉
 久田 安二 福丸 盛弘
 敬次 坂元 岩吉
 猛



福山町役場



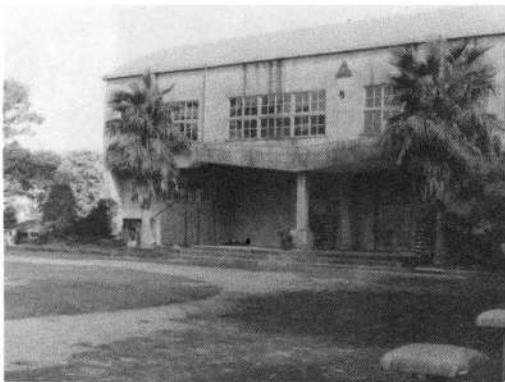
福山町中央公民館



町立福山小学校



福山小学校開校百周年碑



町立福山中学校体育館



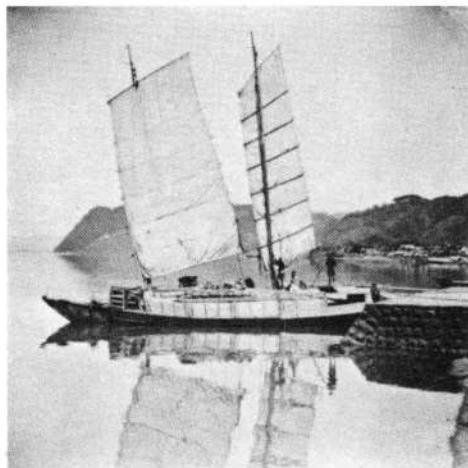
県立福山高等学校



岩崎行親先生胸像

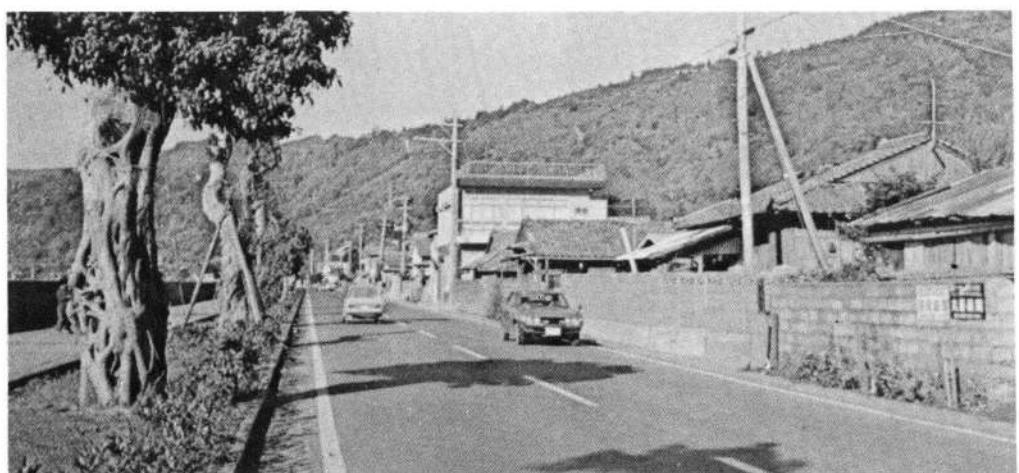


若尊遊歩道



港の風景（昭和53年）

港の風景（福山農協前・大正14年）



国道220号線



宮 浦 神 社



小 逎 造 林 碑



福 山 酢 の 仕 込み



磯 脇 運 動 公 園



農 協 選 果 場



町 議 会



選 挙 開 票



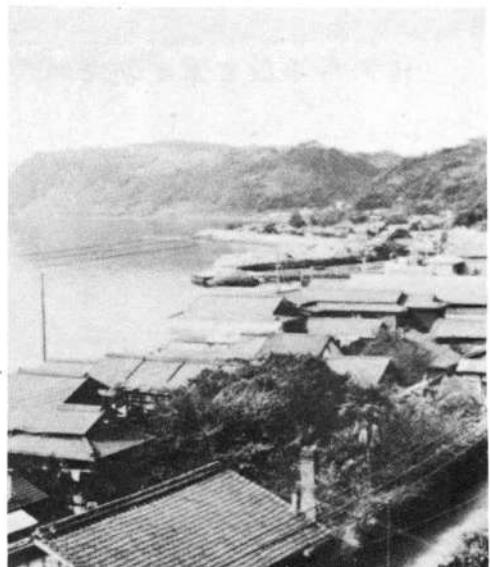
給食センター調理室



給 食



福 山 港



海 岸 の 町 並



商 家 造 り（小廻）



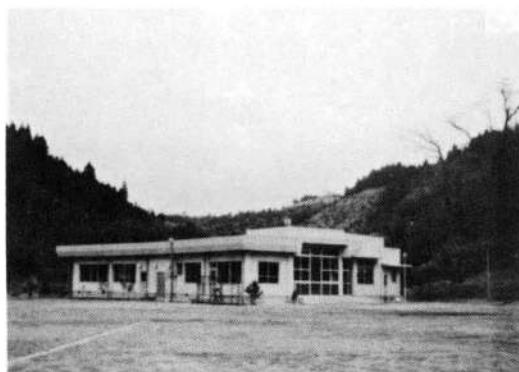
海上自衛隊鹿児島試験所



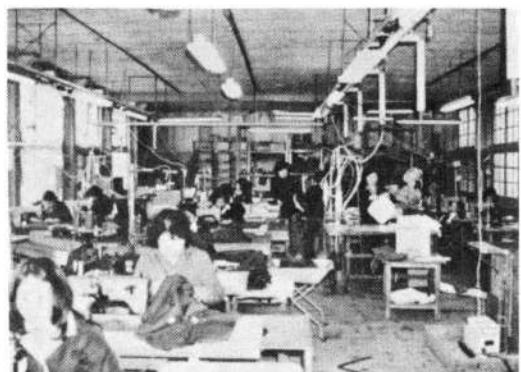
佳例川小設立百年記念碑



佳 例 川 小 学 校



佳例川コミュニティセンター



縫 製 工 場（旧佳例川小跡）



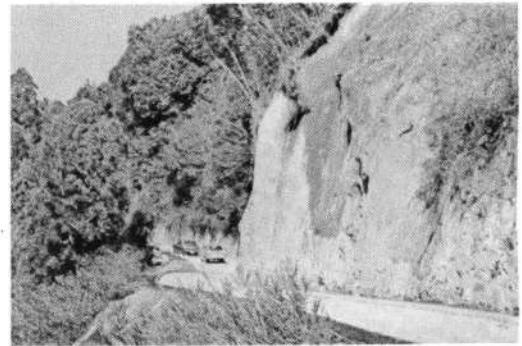
福山町牧之原老人憩の家



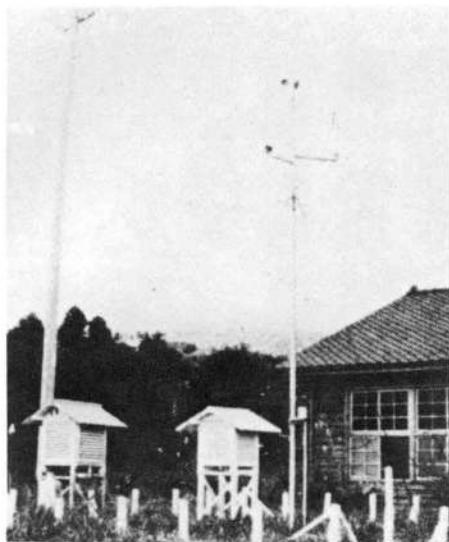
町立牧之原高等学校



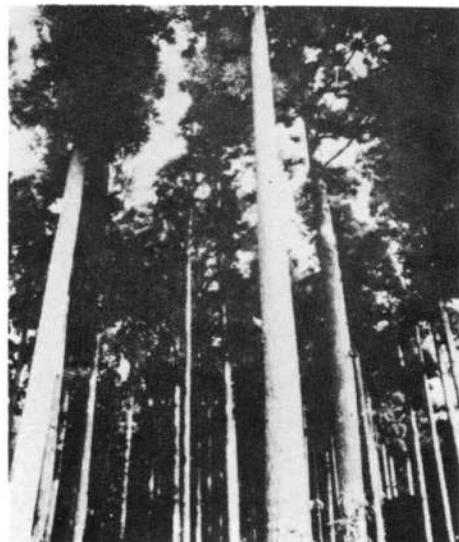
桜島カントリークラブ（ゴルフ場）



シラス土壤地帯



牧之原農業気象観測所



杉山（佳例川）



町民体育祭



町中央公民館大ホール



町立牧之原小学校



町立牧之原中学校



編集委員協同会
久米村才二
木山常一

岡山一二
堀切盛嗣

山形拾壹
市来甫

指宿栄二

園田実満

三ツ石友三郎

松下栄盛

鎌田政夫

宇都靜
谷山二夫

欠席者

塩屋園平吉

今田安治
国師親之



旧果樹選果場（昭和35年） 浜田友一氏提供



宮浦神社 三国名勝図会



岩崎行親肖像

宮浦神社



大安寺 三国名勝図会

大安寺



中尾廉氏教員免許状（大正14年）



東野一二

東野一二氏教員辞令（明治31年）

発刊のことば

福山町長 下昌宜

福山町誌発刊にあたり、町制施行五十周年の記念誌として茲に発刊できることを町民皆様と共に喜びにたえません。

町誌の発刊企画は昭和五十一年に始まり、丁度町制記念の意味でも感銘を深くし、且将来への良き資料となるものと思います。

内容としては全巻を通じて目次や内容が示すとおり、単なる歴史物語風のものだけでなく、学問的に統計的に又、できるだけ多くの写真を加えてその真実性で残すなど、今まで郷土の皆さんのが知りたかつたいろいろな古事

来歴ができるだけ判りやすく解明することに努力がなされております。然し内容的にはまだ他にも歴史的事実を持ちながら、過去の資料不備により採録できなかつた面も多々あつたということで今後の課題として研究の必要があると思います。

編集委員五名、協力員九名、嘱託鎌田政夫先生が三カ年に亘り真剣に取り組んで頂き、六〇〇ページの町誌を完成することができました。この間困難な研究調査にも拘わらず、その調査費は不十分で委員の皆さんのが御苦労は並大抵でなかつたと聞くに及び、改めて事業完遂に示された御心労に対し深甚の敬意と感謝を捧げる次第です。また、編集関係者の現地調査や資料収集にあたり、何かと御援助と御指導を頂きました町内・町外の多くの方々に対しましても厚く御礼を申し上げます。

最後に本誌が郷土の沿革変遷を詳らかにし、また町民相互の透徹した反省と将来への進むべき方向が把握されますならば本誌発刊の目的は十分達せられるものと確信し、福山町の発展を祈念する次第です。

編集執筆は最初から三ツ石友三郎先生を中心に、町誌

昭和五十三年八月三十日

発刊に寄せて

教育長二宮勇男

ひと頃、駅のホームに掲示されているポスターに「デイスカバー日本」という標語が眼をひきました。これは日本美の再発見という意味だと思いますが、わたしどもが古きよき時代を見直しその美を再発見することは、これから住みよい郷土づくりをする上に大事な手がかりとなることは、古くからいわれている「温故知新」を引用するまでもないことだと思います。

郷土誌編さんという大事業に当たつていただいた編集員や直接この業務にたずさわつてくださった方々のご苦労とご努力に対し、心からの敬意と感謝を捧げます。

この郷土誌を一人でも多くの町民・町出身の皆さんに読んでいただきたいと念願する次第です。

昭和五十三年八月三十日

わが郷土福山町も、かつてはすばらしく繁栄した歴史をもっています。時代の移り変わりと共に栄枯盛衰は自然の現象ではありますが、わたしどもが今一度郷土を見直し、将来への発展の構想を練り、われわれの力を尽くして次代の人たちにすばらしい遺産としての福山町を育てあげる義務と責任を感じます。

このような意味からと、町政施行五十周年の年にこのような郷土誌が発刊できることはまことに意義深いこと

刊行を終えて

嘱託鎌田政夫

町制施行五十周年を記念した郷土誌の編さんは記念事業の一つとして意義のある計画でした。

幸か不幸か私がその非才をも顧みず船頭役を務めてきましたが、幸いにも古文書に練達の三ツ石友三郎先生をはじめ、優秀な各委員の献身的な御協力を得てこゝに刊行の運びに至りました。

僅か三年という異例の短い期限のために、心の焦りだけが付き纏う毎日でした。途中いくつかの壁に突き当たりながら、ともすれば崩れがちな弱気を常に支えてくれたものは、「道義的な勇気を持て」という伊地知大先輩のことばや町民各位から寄せられた温かい激励のことばでした。ある時は夏の蔽蚊を払い除けながら、古い墓石の苔を拭いてはくずれかけた文字を拾い、ある時は文献にある所在を現地に確かめるために足を棒にして山野をかき分け、あるいは古老を頼りに話を聞くなど多くの時間を費やして資料の収集に当りました。

郷土誌である以上一地域に偏ることなく、町全体の視

野に立つたつもりですが、それでも尚資料不足や力不足で解明できない点の多かったことをお詫びし、誤りについては今後の新しい研究と改訂に期待したいところです。

今その任を終えるにあたり、先の福山郷土誌の著者故岩崎行義先生の裏面に秘められた御苦労に想いをいたし、生前に尊い資料を提供して頂いたことに更めて敬意を表します。

又、この度の郷土誌刊行に絶大な御理解と莫大な経費を投じられた町当局の勇断に心から敬意を表するとともに、この書が広くみなさんに読まれ、町発展の一助となり、亦明日への糧ともなれば関係者一同の喜びとすることころです。ある哲人の残した「歴史を誇る者は滅び、歴史を創る者のみが榮える」の名言をかみしめながら明日の郷土の発展を祈りたい。

終りに本町郷土誌編集の大任を果たしてくださった三ツ石友三郎先生の御苦勞に心から感謝申し上げます。

昭和五十三年八月三十日

目

次

| | |
|-------------|-----|
| 第二章 弥生式文化 | 四四 |
| 第三章 古墳時代 | 四五 |
| 第三編 古代 | 五八 |
| 第一章 大和時代 | 五八 |
| 第一節 神体山 | 五八 |
| 第二節 鎮魂への祈り | 六〇 |
| 第二章 奈良時代 | 七六 |
| 第一節 律令国家 | 七六 |
| 第二節 条理制 | 八八 |
| 第三節 法王道鏡 | 一〇七 |
| 第四節 律令制の崩壊 | 一一五 |
| 第三章 平安時代 | 一二四 |
| 第一節 菅原道真の左遷 | 一二四 |
| 第二節 莢原と公領 | 一三一 |
| 第四編 中世 | 一五〇 |
| 第一章 鎌倉時代 | 一五〇 |
| 第一節 荘園と御家人 | 一五〇 |
| 第二節 揺れ動く莊園 | 一七五 |
| 第一編 先史時代 | 四〇 |
| 第一章 生物 | 三六 |
| 一、植物相 | 三六 |
| 二、動物相 | 三七 |
| 第二編 史時代 | 四〇 |
| 第一章 繩文式文化 | 四〇 |

| | | | |
|---------------|-----|----------------|-----|
| 第三節 元寇の衝激波 | 一八四 | 第二節 産業 | 三四五 |
| 第二章 室町時代 | 一八八 | 第三節 農業協同組合 | 三五二 |
| 第一節 落日の鎮西探題 | 一八八 | 第四節 交通・運輸 | 三六五 |
| 第二節 南北朝の争乱 | 一九〇 | 第五節 文化・民生・スポーツ | 三六六 |
| 第五編 近世 | 二二五 | 第六節 町政 | 三七七 |
| 第一章 三州統一 | 二二五 | 第七節 福山に伝わる諸芸能 | 四〇四 |
| 第一節 戦国大名の成長 | 二二五 | 第八節 ふるさと福山 | 四一〇 |
| 第二節 戦国無惨 | 二三一 | 第七編 地区のあゆみ | |
| 第二章 江戸時代 | 二三六 | 第一節 佳例川地区 | 四五一 |
| 第一節 葵一色 | 二三六 | 第二節 佳例川のあゆみ | 四五一 |
| 第二節 外城の哀歎 | 二四九 | 第三節 行政区域 | 四五一 |
| 第三節 九州一の牧場 | 二八〇 | 第三節 近世以降の佳例川 | 四五二 |
| 第四節 宝曆の治水 | 三〇二 | 第四節 交通 | 四五三 |
| 第五節 葦子と黒糖 | 三〇四 | 第五節 宗教 | 四五四 |
| 第六節 宗教統制 | 三一〇 | 第六節 孝子・先駆者 | 四五七 |
| 第七節 安永八年桜島大爆発 | 三一六 | 第七節 明治・大正時代の地主 | 四五九 |
| 第六編 現代 | 三一九 | 第八節 佳例川小学校 | 四五九 |
| 第一節 独立国壊滅 | 三一九 | 第九節 衣食住 | 四六一 |

| | |
|--------------|-----|
| 第十節 産業の発達 | 四六三 |
| 第二章 比曾木野地区 | 四七一 |
| 第一節 比曾木野のあゆみ | 四七二 |
| 第三章 福沢地区 | 四八七 |
| 第一節 福沢村のおこり | 四八七 |
| 第四章 福地地区 | 四九九 |
| 第一節 福地村のあゆみ | 四九九 |
| 第五章 牧之原地区 | 五〇九 |
| 第一節 牧之原のおこり | 五〇九 |
| 諸家系譜 | 五三七 |
| 年 表 | 五七一 |